

Title	2009 年度聖学院大学総合研究所：語学ワークショップの報告
Author(s)	メイス, みよ子
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-1
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2207
Rights	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

2009年度聖学院大学総合研究所 語学ワークショップの報告

メイス みよ子

Minneapolis Community and Technical Collegeのルネー・ハンソン教授によるワークショップが3月16日・17日に聖学院大学で開催されました。今回のテーマは、"Shared Power, Peer-Feedback, and Portfolio Review: Potential Paths for Inspiring Language Learners"で、特に英語が母国語ではない学生、または非標準的な英語の環境で生活するマイノリティーの学生を対象としたライティング指導と、一般的な学生に対する従来型評価法の代替として導入されたポートフォリオの特徴、内容、活用の仕方についてワークショップが行われました。

第1日目：模擬授業

第1日目のセッションでは、ハンソン教授の授業活動が模擬授業形式で紹介されました。ハンソン教授のクラスには、自国での内戦を逃れてアメリカへ渡ってきた若者や、貧困生活、犯罪、ギャング闘争の経験者もあり、学生の学習環境は想像を絶するものでした。そのようなクラスでは学生同士がお互



講師のルネー・ハンソン教授

いを分かち合い、信頼関係を築く事が大事であると述べられました。

このワークショップで最初に紹介されたライティングアクティビティ "I come from ~ (hometown, country, family, classroom, friendship, education, values, hopes"では、出席者がそれぞれ自分の体験や想いを "I come from"に続けて発表しました。ハンソン教授のクラスでは、シンプルな "I come from ~"の文章に続く内容が、衝撃的、または悲惨な経験である事が多く、学生達は、このようなアクティビティを通し、お互いを理解、尊重し合えるようになるそうです。次に、学生の書いたライティングを以下の点について評価しました。

- 1) 読み手を意識して書かれているか？
- 2) メッセージが十分に表現されているか？
- 3) 熱意の伝わる言葉で表現されているか？

また標準的な英語で書かれた、百科事典から抜粋されたような文と、標準的な英文ではないにもかかわらず書き手の経験が感情豊かに表現された文を読み比べ、心に残るライティングはどちらであるかなどについても話し合いました。ディスカッションアクティビティでは参加者全員に役割 (例えば facilitator, time keeper, includer, concept watcher, divergent thinker, illustrator, recorder, agenda setter 等) が与えられ、トピックの選出からディスカッションの運営、記録までのすべてを学生主導で行うことを体験しました。

第2日目：ポートフォリオ評価について

第2日目のセッションでは、ポートフォリオを中心としたライティングプログラムが紹介されました。従来の試験による評価と大きく異なるポートフォリオ評価には、次のような特徴があります。

- 1) 様々な課題が最終評価の対象となる。



2日間にわたって開催され、各日20名、21名が参加した。

- 2) 学生同士のフィードバックを活用した修正作業が何度も行われる。
- 3) 学生の学習過程が総合的に評価される。

ハンソン教授の多くの学生が、大学レベルのライティングスキルを習得できていないため、文法知識やライティング能力を計る従来の評価方法では単位が取得できないということでした。そのため、代替評価としてポートフォリオ評価が活用されています。ポートフォリオには、授業活動や課題として取り組んだすべてのライティングドラフト、最終のライティング、担当教授の評価、自己評価、そして単位申請の手紙などが含まれていました。それぞれのライティングの課題は、評価が10点中7点以上になるまで修正が求められました。学期末に提出されたポートフォリオによって学生の学習実績が評価され、条件を満たしていると単位が取得でき、正規の英語クラスを受講する資格を得ることができます。客観性を保つために担当教授は除外され、他の2人の教授によって評価基準の7項目が判定されます。このワークショップでは、それぞれのワークステーションで、評価基準を確認し、学生のポートフォリオの評価方法を体験しました。

おわりに

ハンソン教授のワークショップを通して、社会

的・経済的に恵まれない学生達がこのプログラムを経て更に上の教育を目指して進んでいる事を知り、心が温まりました。このワークショップで示された評価基準項目と評価方法、そしてポートフォリオの情報は、これからの授業で多いに活用できると感じました。また、ライティング指導においては、まずは何を伝えたいのか、そのメッセージをどのような経験を例にとって膨らませるのか、メッセージをどのような言葉で伝えるか等にフォーカスを置き、文法の修正作業はそのあとに行うことも、非常に参考になりました。私たちも、正確な文章や響きの美しい文章だけを追求せず、学生が伝えたいメッセージに耳を傾け、表現できるよう指導していきたいと思っています。

最後に、このような有意義なワークショップの機会を与えて下さいました総合研究所の皆様とハンソン教授に心より感謝いたします。

(メイス・みよこ 聖学院大学基礎総合教育部特任講師)

(聖学院大学4号館4階第一会議室)